

目標と評価の整合性

—国際バカロレア「言語と文学」と国語科との実践報告の比較—

早稲田大学教育学研究科修士課程1年
坂本 樹



(IBO, 2014, p. 3)

目的 目標と評価の一貫性を生み出す要因分析
方法 「言語と文学」と国語科の実践を比較・対照



文部科学省
(文部科学省HP)

実践報告の比較・対照 (配布資料1)

	言語と文学 (廣瀬実践)	国語科 (酒井実践)
共通点	(1) 大単元 (2) テーマに対する多角的な分析を志向 (目標) (3) 複数の教材 (教材) (4) 四技能を総合的に活用した言語活動 (活動) (5) 特定のテーマに対する意見文の作成 (活動)	
相違点	評価に関して明記 (配布資料2) (1) 評価対象 ・小レポート ・意見文 ・定期テスト (問題内容は不明) (2) 評価基準/規準 小レポートと意見文に対して、 個別のルーブリックを活用。	評価に関して明記せず ※報告内容からの推定 ・ワークシート (自己評価&教師のコメント) ・意見文 (評価の方法・基準/規準は不明)

目標と評価の一貫性を生み出す要因仮説—目標観の違い— (配布資料3)

	廣瀬実践	酒井実践
能力目標	(2) 多様な情報に基づく考えの整理 説得的かつ具体的な主張の記述 (3) 比較に基づく資料の分析と解釈 (4) 語句・文法の適切な理解と表現	(10) 論理的な構成と的確な文章表現
態度目標	(1) ものの見方を深め広げようとする	該当項目なし
活動目標	該当項目なし	(3) テーマに関する体系的な理解 (6) テーマに関する問題点およびその原因、今後の予想を多角的に分析・検証する (7) 相反する立場を踏まえた考えの発展
ねがい理想	該当項目なし	(1) テーマへの関心と問題意識の保持 (2) テーマに関するさらなる調査 (4) テーマの重要性の認識 (5) 当事者への共感 (8) 意見を統合するための社会理念に対する認識 (9) 直接・間接体験に基づく当事者意識の醸成

今後の課題

- ・複数事例の分析と検証
- ・国語科の実践における目標・活動・評価の整合性
- ・教育実践における語りの違い

参考文献

IBO, 2014, 『「言語と文学」指導の手引き』
 文部科学省, 2008, 『中学校学習指導要領解説国語編』, 東洋館出版社
 酒井雅子, 2005年6月, 「さまざまな情報から意見を創造する—単元『バリアフリー社会に思う』の実践から—」, 日本国語教育学会, 『月刊国語教育研究』398号, pp. 16-21
 廣瀬充, 発行年月日, 「中等教育国語科におけるコンセプト・ベースの単元設計—国際バカロレアMYPから示唆を得て—」, 全国大学国語教育学会第131回大会研究発表資料